

# 毎日新聞—社会格差の顕在化

大賀哲（九州大学）

[toga@law.kyushu-u.ac.jp](mailto:toga@law.kyushu-u.ac.jp)

## 報告の趣旨

- 毎日新聞におけるコロナ報道において、①どのような責任トピックが、②どのようなアクターを対象に、③どのような論調で語られているか？
- ①政治責任、中央と地方の関係、国際関係への言及が最も多い。次いで、経済や市民生活への言及、とりわけ、コロナによる格差問題が憂慮されている。
- ②政治責任においては首相、中央と地方においては（地方に責任を押しつける）中央政府、国際関係においては米中の「大国の責任」が槍玉に挙げられている。
- ③総じて否定的な論調であり、社会格差の顕在化に対する目配せは随所にある。
- 毎日社説の特徴としては、従来からあった社会問題がコロナによって顕在化しているという論調。コロナ自体の問題を掘り下げているわけではない。
- 先進国、政府、企業などの（わかりやすい強者の）責任を厳しく糾弾。民主主義の問題ではなく、中央-地方問題にフォーカスしている印象がある。

## 1. 政治責任・政治不信（首相の責任）

- リーダーシップ、説明責任、具体的な政策批判が基調。
- 民主主義の問題よりは、具体的な政策の失敗を問う論調が多い。
- リーダーシップ
  - 首相個人のリーダーシップやガバナンスを問題視
  - 政治不信、信頼感の揺らぎ
  - オリパラ、国会閉会

首相のリーダーシップ、政治責任（20.2.27）／危機管理ガバナンス（20.8.12）／責任を国民に転嫁。国民の健康を守る責任。（20.12.15）／政治への信頼揺らいでいる（21.1.16）／首相の責任。関係大臣に責任転嫁（21.1.27）／現実に向き合わない無責任な体質（21.1.30）／政治家の、緊張感を欠く無責任な行動（21.2.3）／広報官辞職、任命責任（21.3.2）／オリパラ責任回避、補欠選敗北、首相の責任（21.4.28）／オリパラ、首相の姿勢は無責任（21.5.12）／党首討論。逃げずに答える責任（21.6.8）／党首討論。わかりやすい言葉で語る責任（21.6.10）／国会を開かないのは政治の責任放棄（21.6.12）／コロナ対策、首相の無責任（21.7.15）

- 説明責任
  - 民主主義の問題はそこまで重視されていない。
  - 説明責任・信頼感・理解の欠如
  - 毎日新聞は、制度的・法的・政策的な責任というよりは、国民の理解・信頼に基づいて責任を定義している。定量的・客観的な責任ではなく、定性的・主観的な意味での責任。

情報発信不足。政治責任（20.4.14）／首相の説明責任（20.7.18）／国民の声に耳を澄ませ、批判を真摯（しんし）に受け止め、開かれた議論をする（20.9.15）／異論に耳を傾けず、与党の数の力で強引に突き進む（20.9.17）／政と官のゆがみ（20.9.21）／国会での議論が必要（20.9.30）／国民に理解を求めるところこそ政治に課せられた責任である（20.12.10）／国民の不安を解消する責任（21.2.4）／非民主的で透明性を欠いた運営（21.2.4）／有権者の不安や不信に応える責任（21.4.26）／オリパラ、国民の納得できる対応をする責任（21.5.14）／説明責任を果たそうとしない（21.6.17）／不安の解消につながる展望をきちんと示す責任（21.6.21）

- **具体的政策についての責任**

- 経済政策の失敗
- 医療体制崩壊
- 感染症対策、ワクチン政策
- 定量的な議論は少ない（まったく無いわけではない）
- 政府の経済政策、医療体制整備は失敗しているということを前提にした政府批判。

デジタル化、格差是正（20.7.10）／GOTO事業政治責任（20.7.17）／無責任な予算膨張（20.8.7）／アベノミクス負の遺産（20.8.31）／安倍政治の総括が不十分（20.9.9）／放漫財政・財政立て直し（20.10.1）／グリーンリカバリー・環境投資で経済回復（20.10.28）／財政の無駄を省き、健全化の道筋を示す責任（20.12.22）／オリパラでの政府の責任・緊急事態宣言（21.1.5）／医療崩壊の責任・政府の責任（21.1.20）／オリパラ開催の責任。具体性を欠く（21.1.25）／オリンピックの延期は密室政治で決まった（21.2.13）／高齢者接種スタート、円滑なワクチン接種に責任（21.4.13）／ココアの不具合。政治の責任（21.4.20）／緊急事態宣言再延長。首相の責任（21.5.29）／五輪の「有観客」方針・安全軽視の無責任な判断（21.6.22）

- **政治スキャンダルをコロナとともにたたく**

- コロナとの直接的な関係性は薄い
- この国難（一大事）に何をしているんだというニュアンス
- 説明責任の問題→政権体質の問題としてフレームアップ

河合夫妻選挙違反→政治不信（20.4.21）／黒川検事長辞職。首相の責任（20.5.22）／コロナなのに黒川問題（20.5.27）／河井法務大臣、首相の任命責任（20.6.25）／菅原議員辞職。首相の任命責任・説明責任の欠如（21.6.3）

## 2. 説明責任・情報公開（政府の責任）

- **説明責任**

- 国民への説明責任が中心。

- 国民への理解が基調
- 首相の責任と比べると政府・行政に対しての説明責任は低頻度

国民に対する説明責任・行政に携わる者の責務 (20. 9. 21) / 基本方針を国民にわかりやすく説明する責任 (20. 11. 20) / 国会閉会。国民への説明責任 (20. 12. 2) / ワクチン不足。言葉を尽くして国民の理解と協力を求めなければならない (21. 2. 27) / 会議の議事録作成が義務づけられていない (21. 4. 26) / 国民の信頼を得ることは難しい。命と生活を守る戦略を明確に示すことが政府の責任だ (21. 5. 8)。

#### ● 個別政策への責任

- 感染症対策
- 経済政策
- オリパラ

観光客激減、政府の政治責任 (20. 3. 22) / 日銀黒田総裁物価上昇の失敗。無責任 (20. 5. 11) / 感染者拡大。手をこまねいていた政府の責任 (21. 5. 15) / 小池再選出馬→説明責任果たしてない (20. 6. 13) 感染拡大。政府の責任 (21. 7. 9) / 感染対策の責任、経済偏重するな (20. 9. 20) 将来世代に無責任なつけ回しをしない予算 (21. 7. 10) / ワクチン接種態勢、政府の責任 (21. 7. 17) / オリパラ組織委の人権意識。説明責任 (21. 7. 21) / オリパラ開催における政府の責任 (21. 7. 25) / オリパラ。すべきことは全て全力でやるのが責任 (21. 7. 31) /

### 3. 科学 (専門家) と政治

- 低頻度だが、国民の生命を守るという規範から、政治と科学の関係 (とりわけ、科学・専門知をどう活かすのか) を掘り下げている。

米バイデン政権。科学的知見を結集し、国民の健康と命を守る対策を講じる責任 (1 1. 10) / 専門家の提言を正面から受け止めない政府の責任 (20. 12. 15) / 科学の知見を踏まえ、国民が納得できる判断をする責任 (21. 2. 19) / 科学的な考えを理解。専門知を政策に生かすシステム (21. 5. 4) / 科学と政治。最終責任は首相 (20. 8. 1 2)

### 4. 行政 (国・地方関係)

- 国は責任を地方に押し付けている。
- 国家の無為無策⇨地方は被害者という構図

国は責任を自治体に押しつけている (国vs自治体の構図) / クルーズ船集団感染、管理責任・行政責任 (20. 2. 21) / 休校要請。唐突 (20. 2. 28) / 一斉休校。子どものストレスや運動不足 (20. 3. 18) / 弱い立場への目配り (20. 3. 12) / まん防、広域的な取り組み、政府に責任。自粛疲れ (21. 4. 10) / 緊急事態宣言。追加対策 (2

0.5.5) /自治体。国は丸投げ。国のミスが自治体がカバーしている (20.5.6) /持続化給付金、電通下請け、経産省の責任 (20.6.12) /議事録、説明責任 (20.6.3) /沖縄戦追悼式と感染対策 (20.6.23) /公共事業は無責任 (20.7.20) /千代田区長解散通知 (20.8.2) /地方の観光産業。地方創生、国の責任 (20.8.21) /自民総裁選。党员投票なし。地方の声を聞かない (20.9.2) /国民や地方自治体に責任を押しつけるやり方 (20.12.3) /地域任せにせず、関与を深める必要。人口が減る地方で、鉄道と並行するような高速道路を整備した責任 (20.12.30) /自治体に責任とリスクを押しつけている (21.6.27) /首相と小池氏で責任を押しつけ合う場面 (21.7.6)

## 5. 国民生活・市民生活

- 既存の社会問題がコロナで顕在化したという見方

### ● 経済

- 大企業/中小企業、企業/失業者、無責任な財政政策/格差拡大とかなりわかりやすい二項対立で展開

先行き不安。企業の責任 (20.3.25) /雇用不安。企業の社会的責任 (20.4.14) /職場のデジタル化推進。雇用不安には配慮すべき (20.5.11) /デジタル・プラットフォーム-GAFA批判 (20.6.29) /中小企業はコロナで甚大な打撃を受けている。経済基盤が崩れる恐れ (20.9.10) /無責任な財政膨張は許されない (20.9.18) /格差を広げる恐れ (20.9.18) /成長戦略の見直し (20.11.03) /日銀の金融緩和策不十分 (21.3.25) /解雇、雇い止め、自助では救えない (21.4.11) /ワクチン、投資と人材育成 (21.6.2)

### ● 市民生活

- 自己責任論、自助の否定
- 感染者に対する差別や偏見の除去
- 支え合い、子育てしやすい社会
- 社会的弱者にフォーカス

自転車利用、交通法規 (20.7.26) /自己責任論ダメ。つながりの再構築 (20.8.25) /部活動での感染。学校の責任 (20.9.6) /子育てしやすい社会を実現する責任 (20.10.16) /過去最大の予算案。国民の負担 (12.22) /罰則を導入することにより、感染者への差別や偏見を助長。国民の理解と協力が前提 (21.2.4) /「五輪をやりぬく」。国民の不安への配慮を欠く (21.2.5) /生活保護・最低限度の生活を保障するのが政治の責任だ (2021.2.26) /オリパラ国民の不安 (21.3.26) /支え合う社会。成長の限界。人口減少時代にふさわしい社会の構築 (21.5.2) /オリパラ感染。大人には安全を守る責任 (21.7.3)

## 6. 国際関係 (国家の責任)

- 国際協調の必要性

- 国際社会全体の責任
- 国際協調のために責任（責任を各国が共有している）

WHOの責任（20. 3. 13）／グローバル化の二面性。G7の責任（20. 3. 18）／責任を世界が共有すべき（20. 3. 29）／入国規制。「鎖国」は長く続けられない（20. 3. 30）／国連の役割と責任（20. 4. 20）／国際協調主義。自国中心主義への批判（20. 5. 2）／ブラジル死者10万人（20. 8. 10）／モーリシャス重油流出（20. 8. 22）／国際協調の必要性強調（20. 8. 26）／日中連携とアジアの安定への重い責任（20. 9. 27）／G7ワクチン合意。国際協調への日本の責任。途上国の信頼厚い（21. 2. 23）

- 米中大国の責任

- 中国は感染源としての責任
- 米国には感染拡大の責任
- これらの大国は世界経済や国際協調のための責任も担っている

中国批判：大国の責任（20. 2. 19）／米国の感染対策、混乱、トランプの責任（20. 3. 14）／米中大国の責任（20. 3. 28）／武漢封鎖解除：中国の自国中心主義（20. 4. 9）／米国WHOに責任転嫁。自国中心主義（20. 4. 16）／コロナ封じ込めの責任とプーチン体制（20. 5. 17）／米中対立。中国の大国路線（20. 5. 23）／コロナ→分断→BLM→大統領の責任（20. 6. 3）／世界経済の長期低迷、米国の責任（20. 8. 3）／中国の責任・行動を自制（20. 9. 27）／トランプ感染。ずさんな危機管理（20. 10. 7）／米中大国の責任・世界経済の安定（20. 10. 17）／感染者急増・地球規模の課題解決に米国の責任は重い（20. 11. 5）／バイデン・経済立て直し・格差を拡大させない（20. 11. 10）

- 安定化は超大国の責任・コロナ克服のために協調（20. 11. 11）
- 国際協調。トランプ（孤立主義）は無責任（20. 11. 25）
- 協調の秩序、米中対立（21. 1. 4）
- バイデン政権。米感染拡大はトランプの責任（21. 1. 22）
- コロナ禍、責任の一端は中国（21. 3. 6）
- 米中。世界経済を安定させる責任、大国の自覚（21. 6. 1）
- バイデン。「大きな政府が試される」責任の自覚（21. 6. 4）
- G7サミット。格差是正への責任。とくに米国（21. 6. 10）
- G7の途上国支援策。「地球規模の課題に責任を果たす意思表示として評価」（21. 6. 15）

## 7. メディアの責任

触れられていない

## まとめ

### (1) どんな責任か？

政治責任、中央と地方の関係、国際関係の言及が多く、政治アクター（国内政治における中央政府、国際政治における国家）の責任を非常に重くとっている。とくに首相の責任はきわめて重い。**定性的な責任概念（信頼構築、理解）と定量的な責任概念（具体的な政策の失敗）**を置き、やや前者に強調がある。説明責任は、説明の欠如よりも**結果として信頼構築できなかったことを批判**。

### (2) どんなアクターか？

首相・政府・国家・企業など**わかりやすい社会的強者**と地方・中小企業・労働者・失業者・子どもなど**わかりやすい社会的弱者**が対比され、後者に対する前者の責任が論じられている。

### (3) どんな論調か？

コロナを通じた**社会格差の顕在化**を批判（これこそが毎日社説の主旨であり、この結論から（1）（2）が導かれているようにも取れる）。かなり柔軟かつ流動的に「なんでも責任論」のように見えなくもないが、社会格差の顕在化（そこにおける自己責任論批判）という毎日の問題意識は明確。